

特別支援教育あどばいすタイム



子どもの望ましい行動を
増やす方法について

特別支援・相談課



今回の内容

1. 強化の原理について
2. 子どもの望ましい行動を増やす方法について
3. まとめ

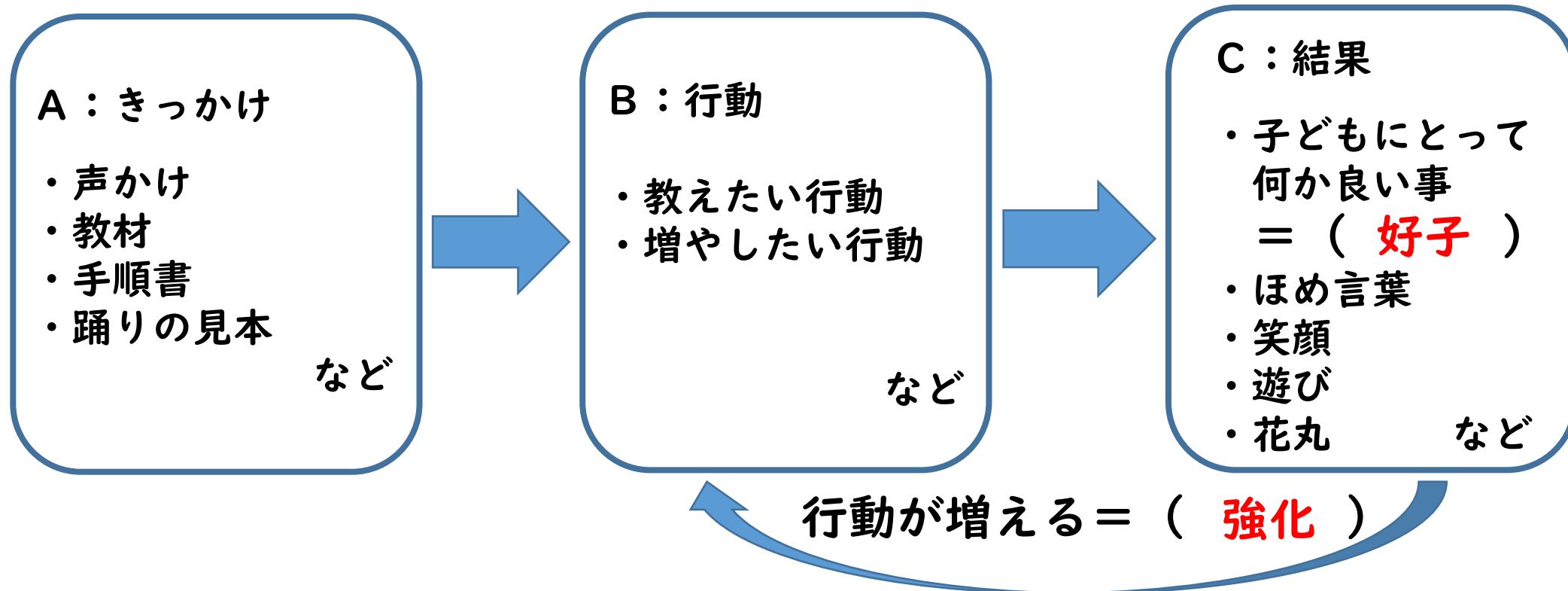


I. 強化の原理について



強化の原理（子どもの望ましい行動を増やすには？）

「行動の直後に、子どもにとって何か良いことが出現したら、将来、その行動は（**増える**）。」



☆日常生活や学校生活の中で、ABC（学習機会）ができるだけたくさん提供することが大切
そうすることで、望ましい行動が増えていく

強化の原理（A B Cの例）

A：先生がカードを提示して「これを見てください」と声かけしたら

B：カードを見たので

C：にっこり笑いかけた



A：先生が踊りの見本を示したら

B：見本と同じように踊ったので

C：「上手！」と言ってほめた

A：お母さんが「片付けしてね」と頼んだら

B：片付けしたので

C：ご褒美におやつをあげた

2. 子どもの望ましい行動を増やす方法について



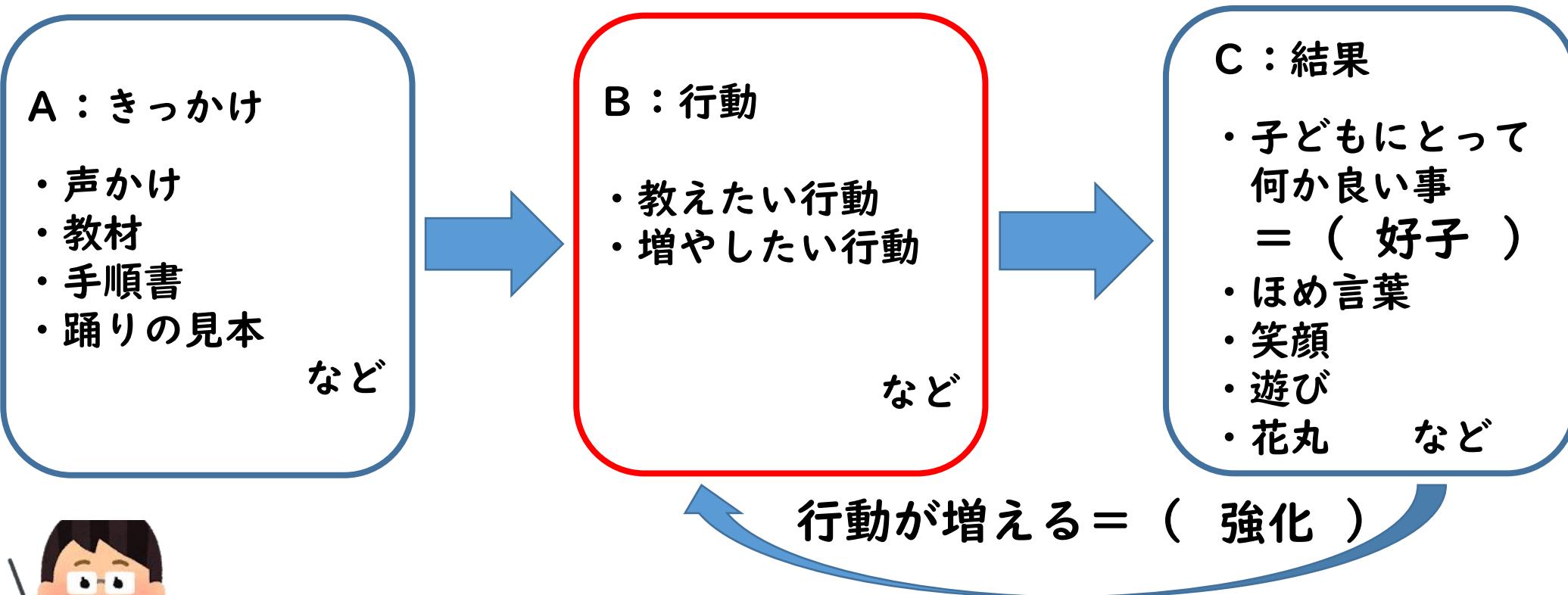
☆ 「強化の原理」の

- A…きっかけ
- B…行動
- C…結果

に着目して、考えてみましょう

子どもの望ましい行動を増やす方法について

その① B：「行動」を考える！

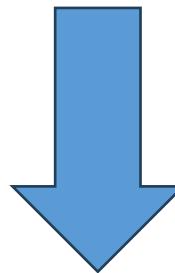


まず、B:「行動」に着目して考えてみましょう

子どもの望ましい行動を増やす方法について

その① B：「行動」を考える！

まず最初に、教えたい行動、増やしたい行動を考える



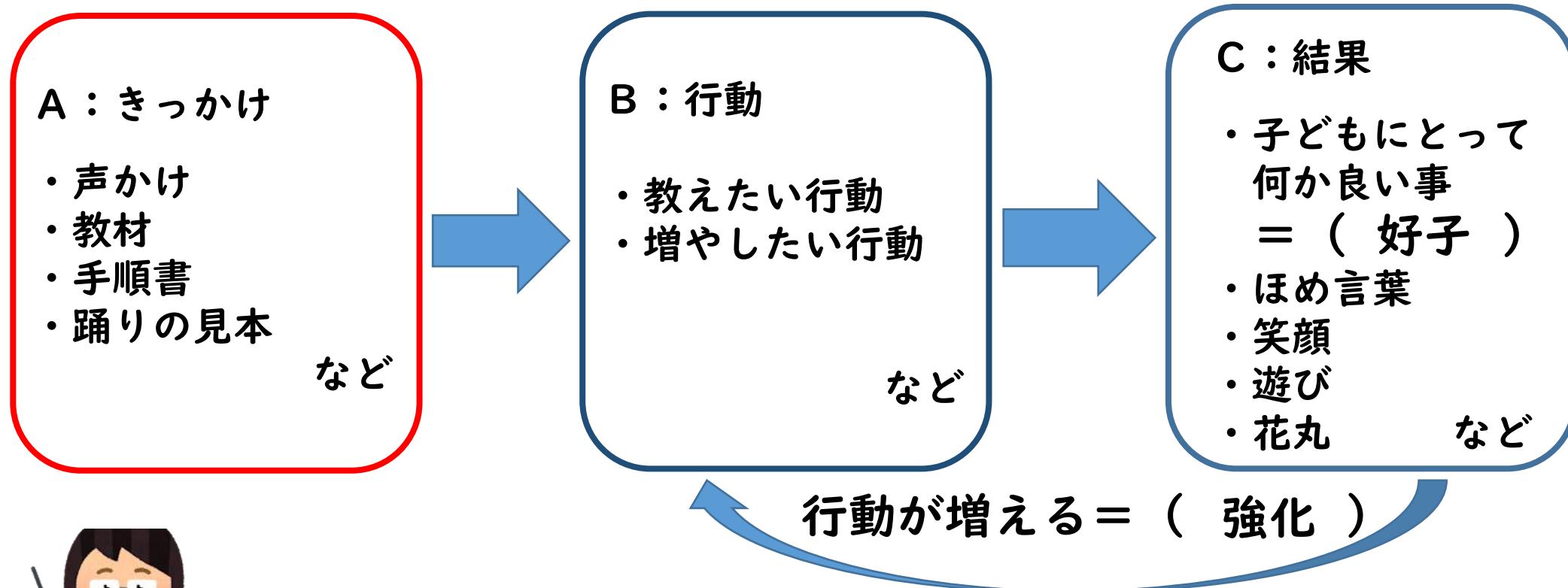
教えたい行動、増やしたい
行動を考える時のポイント！



- ・ちょっとがんばればできそうなこと、今できていることで増やしたいことを選ぶ。
- ・新しい課題（行動）を教えたい場合。
すでにできている課題と、新しく学ぶ課題を混ぜて提供する。
①できる課題→②できる課題→③ちょっとむずかしいけれどがんばろう課題→④できる課題 ぐらいのバランスで課題を設定。

子どもの望ましい行動を増やす方法について

その② A：「きっかけ」を考える！



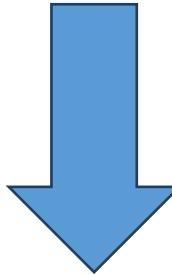
次に、A：「きっかけ」に着目して考えてみましょう

子どもの望ましい行動を増やす方法について

その② A：「きっかけ」を考える！

望ましい行動を引き出す「きっかけ」を考える

☆環境整備



望ましい行動を引き出す
「きっかけ」を考える時の
ポイント！



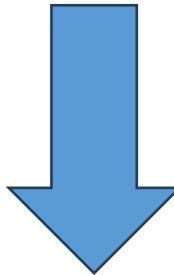
- ・余分なものは片付ける。
活動に必要なものだけを部屋に置いたり机上に置いたりしましょう。
- ・机上で学習する場合。
子どもの足の裏が床につき、椅子と机の高さがあっているだけで、
学習に集中しやすくなります。
子どもの椅子や机の高さの調整をしておきましょう。

子どもの望ましい行動を増やす方法について

その② A：「きっかけ」を考える！

望ましい行動を引き出す「きっかけ」を考える

☆教え方



望ましい行動を引き出す
「きっかけ」を考える時の
ポイント！



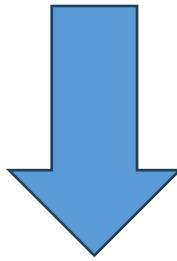
- ・スケジュールや手順書の準備を。
その日のスケジュールや活動の手順を、写真やイラストや文字を使って分かりやすく提示。
- ・どのように教えるかを考える。
手をそえる、モデル提示、指差し、ヒントとなる声かけや視覚提示 など。

子どもの望ましい行動を増やす方法について

その② A：「きっかけ」を考える！

望ましい行動を引き出す「きっかけ」を考える

☆声のかけ方



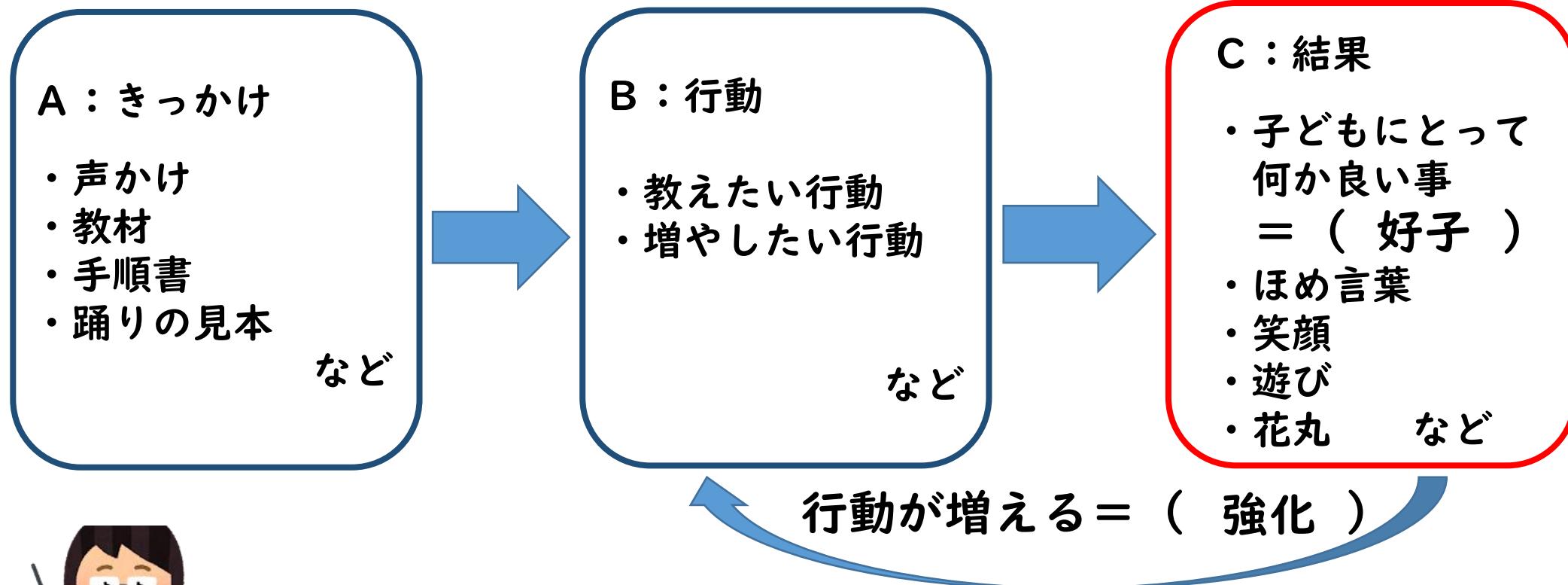
望ましい行動を引き出す
「きっかけ」を考える時の
ポイント！



- ・はじめに、子どもの注意をひきつける。
子どもの注意をひいてから声かけしましょう。
子どもの注意がひけていない時に声かけをすると、「声かけに応じなくても良い」という誤った学習をしてしまう可能性があります。
- ・分かりやすい言葉で伝える。
声かけや質問は、簡潔に、明瞭に。

子どもの望ましい行動を増やす方法について

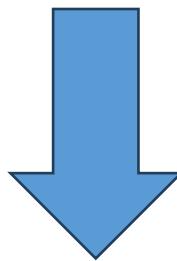
その③ C：「結果」を考える！



次に、C：「結果」に着目して考えてみましょう

その③ C：「結果」を考える！

望ましい行動を増やす「結果」を考える



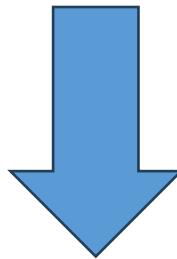
望ましい行動を増やす
「結果」の出し方や考える時
のポイント！



- ・指導を行う前に、子どもの好子（その子どもにとって何か良い事）をたくさん見つけておく。
※ヒント：すぐ使えそうなもの（褒め言葉、笑顔など）、
すごく喜ぶもの（遊び、シールなど）
- ・望ましい行動が見られたら、直後に好子を提示する。

その③ C：「結果」を考える！

望ましい行動を増やす「結果」を考える



望ましい行動を増やす
「結果」の出し方や考える時の
ポイント！



- ・具体的にわかりやすく。
例えば、「手をまっすぐ上にあげたね」「先生の話を聞いていたね」など、何が良かったのかを具体的に伝えます。
- ・バリエーションをつけて。
いつも同じ好子では、子どもはだんだん飽きてしまい、好子の効果が弱くなってしまいます。色々な種類的好子を用いましょう。

褒め言葉を増やす、教員向けゲーム

演習：「褒め言葉、みんなで言ってみようゲーム」

演習のねらい：褒め言葉のヴァリエーションを増やすこと。即時に強化すること。

- ・褒め言葉を、このゲームでたくさん出していく。

- ・ゲームの手順

- ①チームで円になり、褒め言葉を言う順番を決める。

- ②「パンパン」と2回手を叩いた後、「すごいねー！」等の褒め言葉を順番に言っていく。

- ③リズムを崩さず、スピードにのって、テンポよく。

- ④前に出た言葉でも、言い方を変えたらOK。

例えば、「すごいねー！」 → 「すごいなあ」(阿波弁)

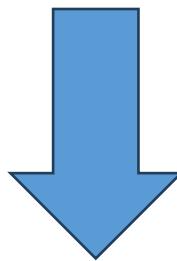
- ・褒め言葉が出なかった時点で、ゲーム終了。



子どもの望ましい行動を増やす方法について

その③ C：「結果」を考える！

望ましい行動を増やす「結果」を考える



望ましい行動を増やす
「結果」の出し方や考える時の
ポイント！



- ・課題と関連した好評は強力。
例えば、子どもが「CDください」と言った時の最高のご褒美（好評）は、CDがもらえて、音楽が聴けること。
- ・試み（課題に取り組もうとしたこと）行動を強化。
「学びへの動機づけ」を保つために、正解ではなくても、課題に取り組もうとしたこと 자체を強化します。

子どもの望ましい行動を増やす方法について

その④ 子どもの動機付けを高める方法



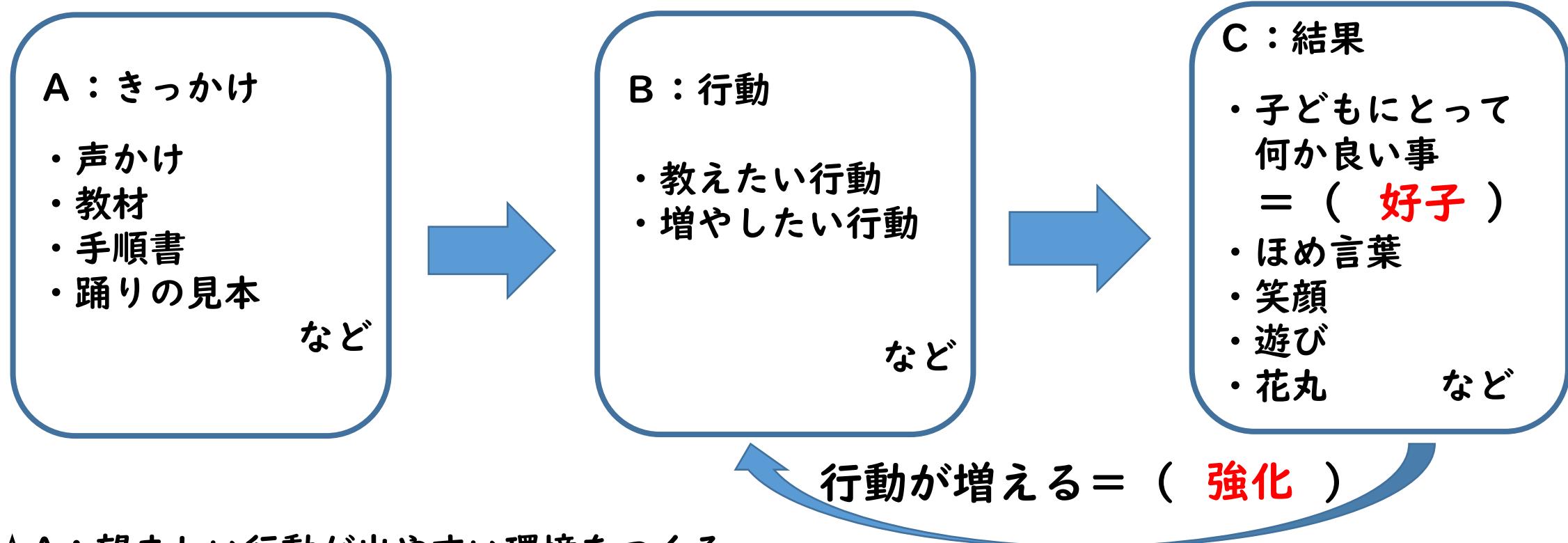
子どもに選択する場面を提供する。

一決められたことをするより、いくつかの選択肢から選んでする方が、子どもの動機付けが高まる。

一例

「どっちにする？」と声かけし、
2種類の課題を提示する。

3.まとめ（子どもの望ましい行動を増やすには？）



☆A：望ましい行動が出やすい環境をつくる。

☆B：子どもの得意な、できつつあるところを見い出す。

☆C：少しでも望ましい行動ができたら、十分賞賛（称賛）する。
達成感を味わえるように。

☆日常生活や学校生活の中で、ABC（学習機会）をできるだけたくさん提供することが大切。
そうすることで、望ましい行動が増えていく。

ご清聴いただき、ありがとうございました。



次回の「あどばいすタイム」も、
ぜひ、ご参加ください。